

「活米」という流儀

長島昭久著

首相補佐官として野田首相に仕えた民主党衆院議員による日米中論。中国の軍事的拡張主義にいかに対応するか。著者はアメリカとの同盟強化と防衛力の着実な整備が取るべき道という。尖閣「国有化」をめぐる野田政権内の葛藤、やりとりが冒頭に示されているが、果たしてそれが全部だったのか。外交・防衛派が「必死にやった」だけではすまない。民主党の安保政策の総決算が必要である。この書はそのとっかかりとでも言うべきものかもしれない。

「活米」 という流儀

外交・安全保障のリアリズム

著者長島昭久
長島昭久



長島昭久こそ、
世界と渡り合える
日本の次世代リーダーだ。
野田佳彦
米國政権の揺らぎ、
中国の台頭、
日本が目指すべき
対策とは!?

講談社
1785円